耳の聞こえから学んだこと

益田市立中西中学校　一年　　大庭璃万

私には持病があります。それは真珠腫という耳の病気です。私は右耳が聞こえにくいので、授業を受けるときは教室の右側に座り、左耳を先生の方にして授業が聴きやすいように工夫しています。

保育園のときに中耳炎になり、そこから耳が聞こえにくくなりました。小学校６年生の途中までは近くの病院に通っていましたがなかなか治らず、山口の病院で診てもらってやっと原因がわかりました。そして、昨年の十一月に全身麻酔の大手術をしました。予定より長かったけど、丁寧に手術をしてもらいました。手術が終わった後は、食欲もなく元気もありませんでしたが、順調に回復していきました。

手術の後、私は学校に行くのがすごく嫌でした。なぜかというと手術の傷があるからです。同じ学年の友達は手術のことを理解してくれているけれど、他の学年の人達はわからないと思うので、何か言われるのではと身構えていたからです。しかし、勇気をふりしぼって学校に行ってみると、思っていたより耳のことで何か言われることはなく、安心しました。

手術から一年が経とうとしていますが、今もまだ完全に耳の聞こえは治っていません。だから、今でも教室の右側で授業を受けています。右側から友達に話しかけられたりすると、聞こえなかったり、何度も聞き返してしまったりすることがあります。そうすると、話しかけてくれた人はあきれてしまうことがあります。だから、私は話の内容が聞き取れずわからなかった時でも適当に話を合わせてしまいます。そんな時、誤解が生まれてみんなとのコミュニケーションがうまくいかなくなるのではと不安になりました。

そこで一学期末に、クラスメイトに私からお願いをしました。少しでもいいから大きな声で話してくれたり、左から声をかけてくれたりすると聞こえやすくなることや話しかけても気づかずにいた時は、声で呼ぶ他に肩などを優しくたたいて知らせてくれたらうれしいといったことなどです。

私の左耳は普通の聴力があります。右耳も手術を受けたので多少聴力が回復しているため、私は補聴器をつけていません。見た目が普通なので、困りごとがあるようには見えないと思いますが、聞こえにくいこともあるのです。こうして私がこのことを言えるようになったのは、私の耳の聞こえが悪いことを理解してくれた友達の存在があったからです。また、今も山口の病院に学校を休んで定期的に通っているので、休んだ日の授業はわからないまま進んでいく日々でした。そんな私を助けてくれたのも家族のように耳のことを理解してくれている友達でした。その友達は授業でわからないことがあり困っていると、「わかる？」と声をかけてくれて、わからないところを教えてくれます。私はその友達になかなか素直になれないのですが、家で一日を振り返るときに、いつもいい友達を持ったなと思っています。

このように、困っていることを理解し、対処してくれる人がそばにいてくれることはとても力になります。一方、困っていることを周りに話すことは勇気がいります。特に私のよう

に見た目ではわからない人は周りに理解してもらうのは難しいです。でも、一人の友達の存在によって、私は私の耳のことを理解してもらえるようにみんなに話そうという勇気を持つことができました。そして、話してみてみんなが受け入れてくれたので、またさらに安心して生活できるようになりました。

この経験を通して、周りの人が気づかず困っている人は実は多いのではないか、それなら、私も私を支えてくれた友達のような人になりたいと思うようになりました。悩みを抱えている人が、勇気を出して自分の困っていることを話してくれるよう人間関係を大切にし、話してくれた人に寄り添ってあげられる人になりたいです。そして、将来は、病気で困っている子供たちの話を聞いて、少しでも気持ちを楽にしてあげるような仕事に就きたいです。

人は、それぞれに悩みや困りごとを抱えて生きています。ひとり一人がそれに押しつぶされずに生きていくには、その困り事を共有していくこと、信じられる友達や仲間を作ることが必要です。日頃からお互いを大切にすることでよい人間関係も築いていけると思います。そして、そのお互いを支え合う関係を大切にして、自分にできることがないかを誰もが気にかけていけば、誰もが困りごとをみんなで抱え支えていく社会になっていくと思うのです。私も、支える側の一人の人間として成長していきたいです。